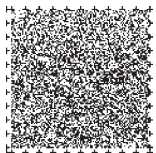


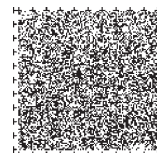
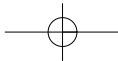
【お知らせ】

埴保己一賞貢献賞の受賞について

このたび、当センター研究所の河村宏特別研究員（DAISYコンソーシアム会長）が「第3回埴保己一賞貢献賞」を受賞されました。埴保己一賞は、幼くして失明したにもかかわらず、文化史上未曾有の文献集「群書類従（ぐんしょるいじゅう）」を編集・出版した江戸時代後期の学者 埴保己一にちなみ、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著

な活躍をしている方又はこのような障害者のために様々な貢献をしている方に贈られているものです（埼玉県ホームページより）。受賞にあたり、河村宏特別研究員から「埴保己一賞貢献賞を受賞して」と題してご寄稿いただきましたのでここに掲載いたします。





「埼玉保己一賞貢献賞を受賞して」河村 宏

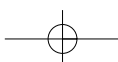
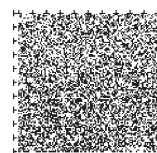
埼玉保己一賞は、「群書類従」編纂という偉業を成し遂げた全盲の埼玉保己一の貢献をたたえて、障害者の自立を推進するために保己一ゆかりの埼玉県が設けた賞である。筆者は、「障害者の自立・社会参加の拡大につながる顕著な発明や機器開発等を行った方」に設けられた同賞の第3回の貢献賞をいただいた。埼玉保己一とヘレンケラーは、一人の障害者が適切な支援を得、夢を持ち努力を重ね、社会に貢献することによって、周囲の常識を変え、時代を超えてグローバルなスケールで後進に夢を与え続けている伝説的な偉人である。先にサリバンプ賞をいただき、今回埼玉保己一賞をいただくことは、この二人の偉人に生き方の上で大きな影響を与えられた筆者にとっては、大変な名誉である。

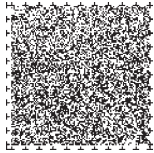
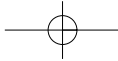
同賞公式Webによると筆者の受賞理由は、「視覚障害者用の世界的共通録音図書として開発された『デイジー』の開発・普及の国際的なリーダーとして活躍。デイジーにより、視覚障害者及び録音図書を必要とするすべての障害者への情報提供・情報資源の共有が飛躍的に促進された。近年では、文字の読みにくくなった高齢者や識字障害を持つ発達障害

者のための情報確保手段としてもこのデイジー図書が高く評価されている」とされる。

デジタル録音図書の国際標準規格を開発・普及することで、読むことが困難なために知識から疎外されている人々の問題を解決しようと国際図書館連盟を通じて呼びかけてから15年が経ち、今ではDAISYは50カ国で視覚障害者と学習障害者に欠かせない情報アクセスツールになっている。日本においては、DAISYの精神障害・発達障害・弱視への応用研究に平行して10年越しで取り組んできた著作権法改正は、すべての読むことに障害がある人がDAISYで読書する権利を認める画期的な改正として決着し、2010年1月1日より施行された。電子出版の本格的普及を目前に控え、読むことに障害がある人々のニーズに応えるアクセシブルな電子出版の標準規格としてのDAISY規格（ANSI/NISO Z39.86-2005）の教科書・教材をはじめとする電子出版物が出版社や図書館から普通に手に入る「出版のユニバーサルデザイン化」が焦眉の課題である。

国内外におけるDAISYの研究開発と普及に、更に微力を尽くしたい。





〔卒業生訪問シリーズ〕

センター学院卒業生の 就職先を訪問して

管理部企画課

今回は、当センター学院リハビリテーション体育学科を卒業され、現在「医療法人社団白鳳会 大角医院デイサービスセンター」（東京都練馬区）にリハビリテーション体育士として勤務されている遠藤晋様（10期卒業）と鈴木 真生子様（16期卒業）のお二人取材いたしました。

「大角医院デイサービスセンター」は、通所介護事業所として、在宅の要支援・要介護高齢者に対し、通所により、身体機能の改善や心のケア等に必要な各種サービスを提供することによって、これらの高齢者の心身機能の維持・向上などを図っています。

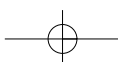
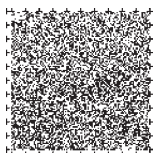
1. 現在の職場（所属先、仕事の内容）について教えてください。

大角医院デイサービスセンターでは、生活相談員、看護師、介護職員など非常勤を含め13名の職員が働いています。私たちは、リハビリテーション体育士として、運動指導や介護業務、送迎業務、その他管理業務（事務）等を行っています。

2. 運動指導の具体的な内容を教えてください。

運動指導として、集団体操（ストレッチ、リズム運動、筋力強化ほか）、歩行練習（平行棒、応用歩行、介助歩行ほか）、マット運動（体操、ストレッチ、筋力強化ほか）、マシントレーニング（エアロバイク、トレッドミル、レッグプレス、滑車ほか）などを行っています。

運動指導は、利用者様がその身体の機能の維持向上を図るだけでなく、生き生きとした在宅生活を送っていただくこと、また生きがいを再発見していただくことも目的としています。そのためサービスの提供にあたっては、理学療法士、リハビリテーション体育士、トレーニング指導士、音楽療法士などの専門スタッフが関わりあいながら、レクリエーション、ゲームなども取り入れ、楽しく、安全で、効果的な運動プログラムとなるよう心がけています。また利用者様相互の交流を図り、心のケアを行っています。



3. 現在の職場に就職した理由について教えてください。

(遠藤) 学院リハビリテーション体育学科卒業後、国リハで非常勤としてスポーツ訓練の補助員として勤務している中で、高齢の方々、特に何らかの障害を持った方々の地域・在宅生活に興味を持ち始めました。そんな中、大角医院デイサービスセンター前任の先輩(7期卒業)よりお誘いを頂き、自らの学んだ知識や技術を生かせる職場であると考え、就職しました。

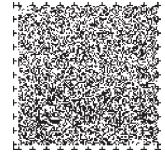
(鈴木) 高齢者の施設で実習を行ったことをきっかけに、高齢者に携わる仕事に就きたいと考えていました。また、学院での学びを仕事へ直接活かすことの出来る環境を探していました。その矢先、先輩からのお誘いをいただき、就職しました。

4. 仕事で心がけている点や苦勞、またやりがいはいはどんなときに感じますか？

(遠藤) その日その日のプログラム提供場面で、利用者様の笑顔や心・体の大きな動きを一つでも引き出そうと心がけています。苦勞していることは、高齢や障害があること等様々な理由から運動プログラムの効果がすぐに表に現れにくいことです。ですが、逆にそれがやりがいでもあります。利用者様の明るい表情や声に接したときは、大変うれしく、やりがいを感じます。

(鈴木) 利用者様との関わりにおいて、“心の通うコミュニケーション”、“その一瞬のやり取りを大切に”という想いを常に心に留め、接しています。またプログラム提供場面では、利用者様がその内容や他の利用者様との関わりを通して、日常生活では引き出すことの難しい心身活動を、少しでも引き出せるための工夫を行っています。そして利用者様の笑顔に触れたときや、「楽しかった」、「来て良かった」などの声を寄せていただいたときには、やりがいを感じます。

5. 学院リハビリテーション体育学科を志望した理由、きっかけについて教えてください。



(遠藤) 大学在学中、心身に何らかの障害を持った方々のスポーツに興味を持ちました。そして職業として未知の分野に挑戦しようと考え、ゼミの教授より、国リハの募集要項を紹介され、志望しました。

(鈴木) 海外ボランティアで、障害のある方々が多く集まる施設へ行きました。そこで、障害がありながらも生き生きと運動やスポーツを行っている姿を目にし、その光景に感銘を受けたことがきっかけです。また、“リハビリテーション体育”という未知の領域に興味があり、志望しました。

6. 学院生活について、特に思い出に残っていることは何でしょうか。

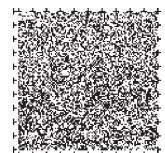
(遠藤) 実習で、実際の対象者と直に触れ合い、対象者の心身機能や人生に関わるのでできた経験が特に思い出に残っています。

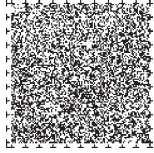
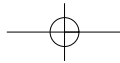
(鈴木) 実習で初めて担当した患者様に自ら考えた運動プログラムを提供し、様々なご指摘やアドバイスをいただいたことが印象的です。また学院生活においては、同期に障害のある友人がいて、共に歩み、励まし合いながら過ごした日々が、特に忘れられない思い出です。

7. リハビリテーション体育学科で勉強している先輩へのメッセージ、アドバイスをお願いします。

(遠藤) リハビリテーション体育学科では、様々な知識や技術を学びます。しかし社会に出て、対象者に伝えるのは、知識や技術ではなく、「魂」です。健闘を祈る！！

(鈴木) 卒業して改めて感じましたが、学院で学び、経験したことは、本当に貴重で、意義のあるものです。仕事はもちろん、その他様々な場面において直接的に、





あるいは間接的に必ず役に立ち、自分自身の支えとなります。前向きに積極的に学び、有意義な学生生活を送って下さい。

8. これからリハビリテーション体育学科に入学しようとしている方々へ向けにお二人からセンター学院のPRをお願いします。

リハビリテーション体育は、社会的にはメジャーとは言い難い領域ですが、障害のある人々の増加、

障害の重度化・重複化、高齢化などに伴い、そのニーズは、今後ますます高まってくると感じています。学院生活では、講義や実習を通し、通常では体験することの出来ない貴重な経験をすることができます。これらのことは自分自身の糧となり、将来あらゆる場面で役立つと確信しています。それに何より、沢山の素敵な仲間との出会いもあります！

— 遠藤さん、鈴木さん、ありがとうございました。

